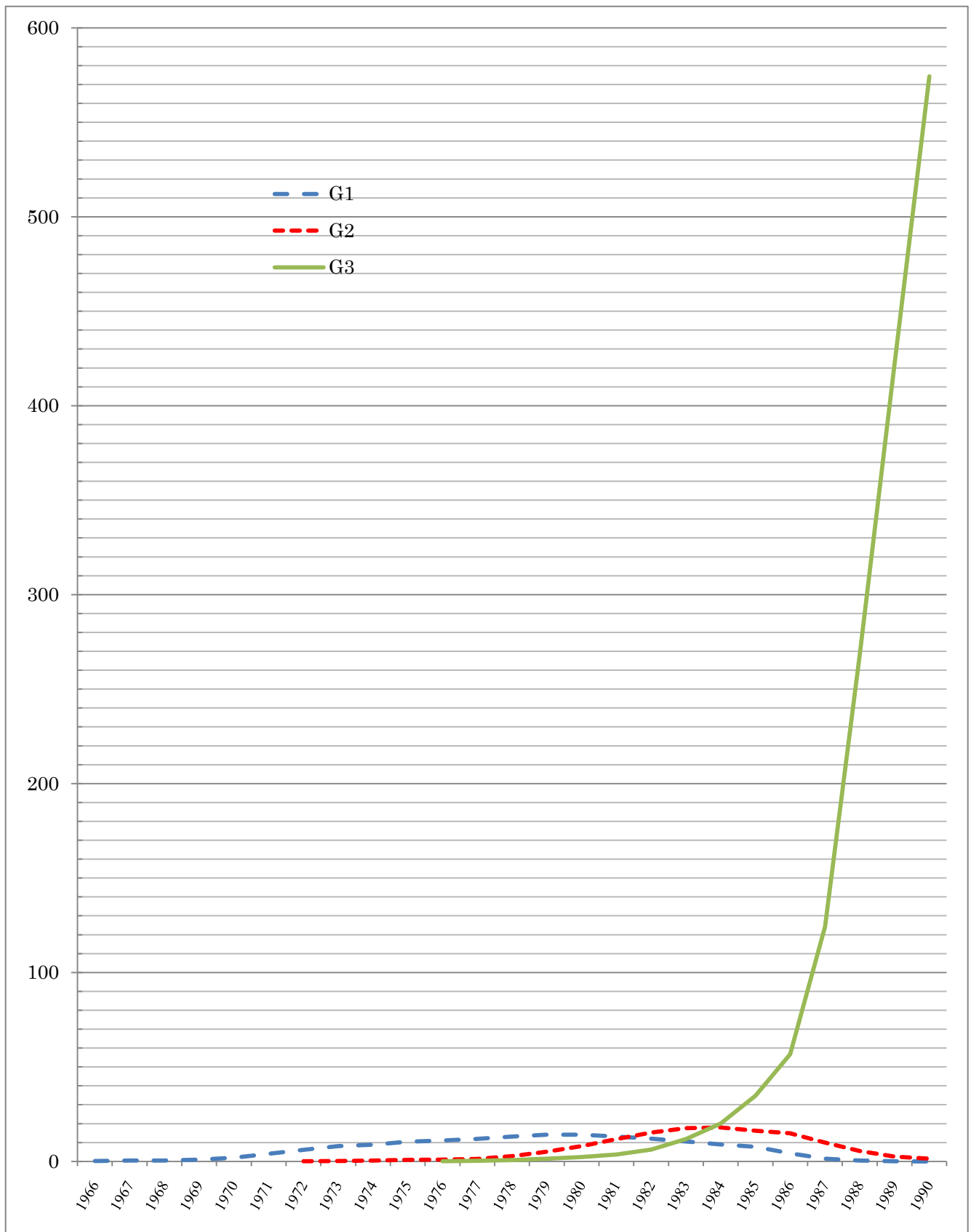


# 北米におけるFAX設置台数 1966-1990



1902年に有線電送写真技術(FAX)が実用化され、世界各地の新聞社によって利用されるようになる。---- 利用者は新聞社に限定され、ネットワークはそれ以上の広がりを見せなかった。「文字」による情報伝達技術としては、電報に対する技術的優位性が低かった。(FAXは、署名など文字画像に対応しているという技術的に相対的優位性を持つてはいたが、そうした機能に対するMarketのdemandが低かった。)

	G1	G2	G3
1966	0.2		
1967	0.4		
1968	0.5		
1969	1.0		
1970	1.9		
1971	4.0		
1972	6.1	0.1	
1973	8.1	0.2	
1974	8.9	0.5	
1975	10.4	0.8	
1976	11.1	1.0	0.1
1977	11.9	1.3	0.3
1978	13.2	2.8	0.7
1979	14.2	5.1	1.5
1980	14.1	8.1	2.3
1981	13.1	11.8	3.7
1982	12.0	15.3	6.3
1983	10.6	17.6	11.8
1984	9.0	18.0	20.1
1985	7.7	16.2	34.7
1986	4.3	14.9	56.7
1987	1.5	10.0	124.3
1988	0.5	5.5	268.1
1989	0.1	2.6	421.6
1990	0.0	1.4	574.3

アメリカではベル・システムは電話回線に非ベル系端末装置の接続を1956年まで禁止していた(最高裁判決により解除、

連邦通信委員会(FCC)は、1968年に他社が提供する付属装置の接続を禁ずるAT&Tの営業規則の見直しを命じ、電話端末機器への競争を導入した。  
[<http://it.jeita.or.jp/infosys/f-office/newyork0209/newyork0209.html>]

日本では、1985年に電話機を始めとする端末設備の接続が自由化

年	規格名	伝送回線	伝送方式	伝送速度	伝送能力		備考
					解像度	A4-1枚送信の送信時間	
1966	G1 FAX	電話音声回線	アナログ伝送		100dpi	6分間	G1同士でもアメリカとヨーロッパや日本とは送受信ができなかった
1971	G2 FAX	電話音声回線	アナログ伝送		100dpi	3分間	世界的な互換性(compatible worldwide)を確保
1979	G3 FAX	電話音声回線	デジタル伝送	4.8kbps	200dpi	1分間	全てのG3の間での互換性確保
1984	G4 FAX	ISDN回線	デジタル伝送	64kbps	400dpi	10秒間	完全なデジタルFAXシステム